

健康と安全に関心をもち、共に生きる子の育成  
 ～仲間と共に粘り強くやり抜く気力と体力づくりに励む子～

岐阜県山県市立富岡小学校

1 学校紹介

本校は、明治6年に「育文舎」として開校し、今年度創立152年目を迎えた。山県市役所や東海環状自動車道の山県ICがあり、山県市の行政と交通の中心を担う地域にある本校は、現在、特別支援学級を含めた14学級、児童数286名（令和6年5月現在）の中規模校である。



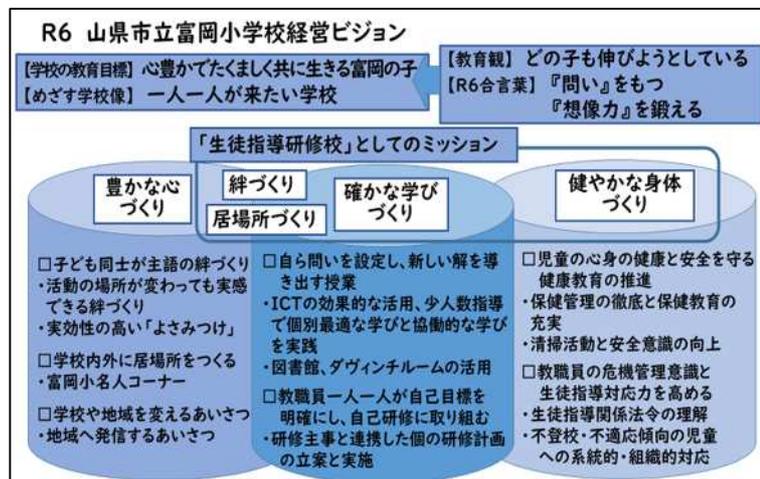
本市は、長年歯科指導に力を入れて取り組んでおり、本校においても、平成19年度から連続して歯科保健優良校の表彰を受け、22年度には全国表彰を受けた。また、令和5年度には県の体力優良校表彰を受賞している。

地域や家庭の学校教育、健康教育への関心は高く、特に歯科指導においては、PTA家庭教育委員が中心となり、夏休み期間中に歯みがきの取組を実施するなど、家庭での実践力を高める活動を推進している。

2 学校経営方針と健康づくり

- 学校の教育目標 心豊かでたくましく共に生きる富岡の子
- 健康教育の目標 自分の心身の健康と安全に関心をもち、粘り強くやりぬく気力と体力の増進に励む子の育成

本校では、「心豊か＝徳」「たくましく＝知」「共に生きる＝体」を学校教育の中にバランスよく取り入れ、地域に頼りにされる子どもたちの育成を目指している。特に「共に生きる」は、自分やみんなの幸せのために、子供たちが主体となって行動できる力の育成を目指す目標である。生きる力の基盤となる実践力や体力の育成を通じて、自他の生命を尊重し、安全や安心に役立つ態度の育成を目指している。自分だけでなく、学校の仲間、家庭、地域の心身や環境が身体的・精神的・社会的に良好な状態であるウェルビーイングの意味も含み、本校において健康教育は学校の教育目標を具現する柱となっている。



### 3 健康づくりの推進体制

#### (1) 定期的に開催（指導部会）

本校の健康づくりを中心になって推進するのは、生活指導部会である。健康教育推進及び校内の保健安全指導に関わる指導を、それぞれの年間指導計画を作成するとともに、様々な教育活動を「教育の側面」と「管理の側面」から整理して職員会で提案、意図的・計画的な取組を推進している。

#### (2) 必要に応じて開催（各種関連委員会）

「食物アレルギー対応委員会」をはじめ、家庭と連携した食育指導の充実を目指す「食育推進委員会」、児童の心の健康を守る「いじめ未然防止対策委員会」や不登校傾向児童への対応を共有する「ケース会議」、非常変災時や事件・事故への校内体制を整える「学校安全対策委員会」などを必要に応じて開催している。

#### (3) 外部組織との連携

児童の心身の健康を守るためには、外部の関係組織との連携は不可欠である。対象となる児童とスクールカウンセラーとの面談を設定したり、専門的な立場から児童への支援方法などのアドバイスを受けたりしている。

また、山県市の「こどもサポートセンター」や福祉課などと気になる児童についての家庭環境や生活状況などの情報を共有し、早い段階から連携して適切な指導ができるように体制を整えている。

### 4 特色ある取組

#### (1) 保健指導

##### ① 歯科保健指導

##### ○ 日常指導

日課の中に「歯みがき」の時間があり、各学級担任指導のもと全員が歯をみがく時間を確保し、歯みがき習慣の定着を目指している。また、ブラッシング指導で学んだことなどを保健室や手洗い場に掲示することで日常生活の中で振り返るきっかけとなるようにしている。

##### ○ 児童保健委員会活動

毎年、児童集会で歯や口腔内の健康で大切にしたいことや意識させたいことを発表している。また、全校の意識を高めるため、毎月1週間ずつ担当の学級で「歯みがき・歯ブラシチェック」に取り組んでいる。

さらには、保育園へ行き、クイズをしたり、直接園児の手を取ってみがき方を教えたりするなど児童・園児共に楽しみな時間となっている。



昼の歯みがきの様子



保育園での交流の様子

## ○家庭・地域との連携

山口市から歯科衛生士が派遣され、全学級で1年に1回専門家からブラッシング指導を受ける機会を設けている。2年生では授業参観で実施し、保護者も共に指導を受けている。



歯科衛生士によるブラッシング指導

長期休みに、家庭で「歯みがきカレンダー・歯垢染め出し」に取り組んでいる。中でも夏休みの歯みがきカレンダーは、PTA家庭教育委員が作成し、頑張った児童に表彰状と歯ブラシが渡される。それを目標に頑張る児童もあり、よい機会となっている。



PTA作成歯みがきカレンダー

さらに、ポスターや標語のコンクールに応募することで、「歯みがきに関わる時間」だけでなく、歯や口腔の健康を考える機会としている。

## ②生活習慣指導（年3回の生活リズムチェック）

規則正しい生活を送ることが困難な児童もいるが、チェック期間だけでも意識してみることなど、個別に働きかけをしながら、意識の向上を図っている。さらに今年度より、中学校区で同時期に一斉に行う「アウトメディア」の取組が始まった。



前回の様子を振り返りながら取り組むチェック表

また、山口市養護教諭部会で睡眠などについての動画を作成しており、担任による学級指導時や保健室での指導で活用している。

## ③保健だよりを活用した保健指導

様々な保健指導を養護教諭だけで行うことは困難なため、担任による保健指導が行えるよう、保健だよりを活用している。時期に合わせた内容、共通して指導したい内容を掲載し、特にポイントとなる部分は、別途伝えており、担任自身も指導内容を意識することができるようにしている。

## ④食に関する指導

給食はランチルームで全校一斉に食事をするため、一斉指導を行うことができている。ランチルーム併設の調理室で調理されたものを食べており、調理員に感謝の気持ちをもって食べることができている。献立は「いい歯の日」や「食育の日」「生活習慣予防」などテーマに合わせた工夫がされており、給食が児童にとって、大切な食育指導の場となっている。



ランチルームでの給食の様子

さらに毎年「学校給食メニューコンクール」に6年生が応募することで、「食べること」についてだけでなく、食について考える機会としている。

## (2) 体力づくり

### ① 休み時間の運動・遊び習慣の定着

休み時間は、ドッジボールや鬼ごっこ、遊具や竹馬など様々な道具を使用し、運動場で元気よく遊んでいる児童が多い。授業で行った内容の技術向上を目指して練習している姿や異学年で遊ぶ姿もあり楽しく運動に親しむことができている。



遊具等を使って  
異学年で遊ぶ姿



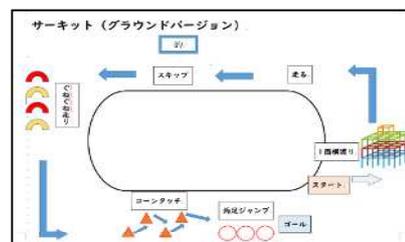
キャッチボール  
プロジェクト

また、大谷翔平選手寄贈グローブを活用したキャッチボールプロジェクトを児童が実施しており、グローブを使う嬉しさと共に、うまくできたときの児童には笑顔が溢れている。「運動は楽しい」という経験させることが、今後のスポーツライフに関わってくると考えており、さらには、投げ方などを教えた児童が、相手の「できた」という成功体験につながったという喜びを感じることもできている。

### ② 体育の授業での工夫

#### ○サーキット遊び（授業前の準備運動）

単元ごとの付けたい力に合わせて内容を変更して実施することで、心拍数をあげたり、楽しく授業に取りかけられたりする効果がある。



サーキット遊びの方法（グラウンド版）

継続することで、体力テストの結果が向上することも期待している。

#### ○ICT（タブレット）の活用

その場で師範動画の視聴や自分の姿を映像で確認しながら進めることができている。また、本時の姿をもとに次回の課題を設定するなど、個々の課題解決や技能の向上に活かすことができている。



タブレットを用いての学習の様子

### ③ 児童体育委員会の取組

児童集会で体力向上に向けての取組を発表した後、各学級に室内でできる運動を教えに行ったことで、覚えた運動を進んで実践する児童の姿も見られた。



児童集会での発表の様子

また、運動する機会を増やすとともに記録向上を目指したり、競い合ったりする楽しさを味わえるように、ドッジボール大会や大縄大会を企画している。

### ④ 地域との連携（2年生対象の公民館事業）

授業で取り扱わないような内容の運動遊びを実施するため、児童にとって新鮮で楽しい活動であり、運動に親しむ機会となっている。



公民館事業で楽しく運動する様子

### (3) 安全教育

#### ①自分の命を守るための取組

校区に自動車道のICが開通し、本校近辺の車の交通量が増えたことにより、登下校時の安全が大きな課題となったため、通学班の班長が中心となり、自分たちの命を守るためについて考え、実践する取組を進めている。こうした取組が認められ、山県市交通安全協会から表彰を受けた。また、いのちの安全教室や連れ去り防止教室、不審者対応実地訓練などにより、児童の安全への意識と実践力を高めている。



いのちの安全教育の様子

#### ②交通安全（地域との連携）

地域には、多くの見守り隊の方が子どもたちの安全を守る活動を推進してくださり、毎日交差点などの危険な場所に立ち、児童の見守りを続けていただいている。毎年4月には「見守り隊発足式」を行い、見守り隊の方に毎日の見守りへの感謝を伝え、安全な登下校の実践に向けた決意を新たにしている。



見守り隊による登下校の見守りの様子

#### ③防災

訓練では、様々な場所での発災や災害に応じた内容での避難の仕方を複数回実施している。

今年度は、防災の専門家を招き、高学年が地震発生時の危険箇所や避難の方法を学んだ。その後、その学びを活かし、異学年の仲間と校内の危険箇所を調べ、避難方法を自分たちで考えた。

また、防災集会で被災地派遣経験や災害ボランティアに参加している本校養護教諭から、被災地の現状など聞き、今、自分たちにできることを考えた。その後、タオルなどの支援物資を集め、被災地に届けた。



異学年集団で校内の危険箇所を考える



集まったタオルなどは被災地へ

#### ④心の健康を守る

##### ○全校で考える

毎年6月にいじめを考える日、11月に人権集会、共通の議題で考えを交流し合うオンライン全校学活など、全校で伝え合う活動を行うことで一人一人を大切にしていると感じている。



オンライン全校学活の様子

##### ○居場所づくり・絆づくり

登下校中、停止してくれた車に対して通学班長が深々と礼をして挨拶

をしたり、休み時間を利用して保育園に読み聞かせに行ったりするなど本校の伝統である挨拶や読書が校内だけでなく地域にも広がっている。

また、入院された見守り隊の方に「折り鶴をプレゼントしたい」という思いから始まった、「折り鶴プロジェクト」など「〇〇プロジェクト」と称した様々な活動がある。思いに共感した仲間の活動が異学年交流の場となるなど、学年関係のない交流が盛んに行われている。



異学年が参加した折り鶴プロジェクト

また、見守り隊の方に暑中見舞いを出したり、県外の被災地に向けて手紙を書いたりするなど、絆を大切にしながら様々な活動も行っている。

さらに校内に「富岡名人コーナー」を設置し、学校内外の運動や文化的活動での活躍を認めたり、学校生活をよりよいものにするために活動した児童などを奨励したりしている。今年度からは地域推薦部門もできた。自分が認められることで自己肯定感を高め、誇らしく生活するきっかけとなっている。



富岡名人コーナーの様子

## 5 成果と課題

本校では、「主体的に健康づくりに取り組む児童の育成（保健）」「運動を楽しんで続けられる児童の育成（体力）」「児童の心身の健康を支える安全・安心な学校づくり（安全）」の3つの視点で健康づくりを進めてきた。

歯科保健に関わる取組では、家庭と学校の協力体制を構築し、効果を上げている。体力づくりにおいても、子ども自身が仲間を啓発する取組により、運動に親しむ子を増やしたり、望ましい運動習慣が定着したりしていると言える。安全指導では、地域や家庭生活における安全意識の向上をはじめ、自己有用感を育む学校風土が醸成し、それが不登校傾向児童の減少につながったのではないかととらえている。

No.	児童への質問項目	R3	R4	R5 前年比	よく 当てはまる	だいたい	あまり	全然
17	自分の命を守るために気をつけて生活している	3.7	3.6	3.6 —	69.7%	25.5%	4.0%	0.8%
					95.2%		4.8%	
18	自分にはいいところがある	3.3	3.3	3.3 —	46.4%	41.2%	10.0%	2.4%
					83.1%→87.6		16.9%→12.4	

学校生活アンケート結果

今後は、教職員の健康や安全に対する意識をさらに向上させ、的確に動ける組織を構築することで、健康に関わっての細やかな個別指導の充実や目標値を意識した体力テストへの取組等を進め、他律的健康づくりから自律的健康づくりへの転換を図るように様々な視点で見直し、より効果的な取組となるように改善していきたい。